豊崎小

主体的に学びに向かう子の育成

～児童が自ら取り組む働きかけの工夫を通して～

（３年計画の２年次）

校長　　町田　晋一

１　研究主題について

本校では、教育目標として「たくましく生きる子」を、学校目標として「自分の思いを大切にし、学びに向かう力をもつ子」を掲げている。この具現化のため、昨年度から研究主題を「主体的に学びに向かう子の育成」、副題を「課題意識をもち、達成感が得られる学習指導の在り方」として、授業のみの関わりだけではなく、普段から児童が課題を意識し、自分で考える習慣がつくことを大切にしながら、３年計画での研究を開始した。

昨年度は、課題提示や発問の工夫を行ったことで、児童に課題意識や見通しをもたせることができ、主体的に課題解決に取り組む姿が見られた。また、対話させるねらいを指導者が明確にして、対話の内容や形態、思考の可視化に取り組んだことで、児童に自分の考えをもたせたり、理解を深めさせたりすることにつながった。そして、日常において児童に自分の考えをしっかりもたせる関わり方の共通理解を図り実践してきたことで、児童に意思決定する力の向上がみられるようになってきた。

しかし、各指導過程での「学びに向かう子」の具体的な姿が曖昧であったことが課題にあげられ、児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業実践や児童に考えをもたせる教師の関わり方についてさらに研究を深める必要が出てきた。

そこで、今年度は「学び」とは「何かをできるようになることの全て」とし、「向かう力」を「指示や提案をされるのではなく、自分の意思で考え、行動に移せる力」とした。そして副題を「児童が自ら取り組む働きかけの工夫を通して」と変更した。それを受けて研究内容は授業の中で取り組むものと、各学級担任が日常の中で取り組むものとの２本の柱で行っていくこととした。授業の中で取り組むものとしては、(1) 知的好奇心を高め、考える必要感がある課題提示や発問の工夫、(2) 自分の考えをもち、深める手立ての工夫、(3) 学びを深め、次への意欲を高める振り返りの工夫とし、日常の中で取り組むものとしては、(4) 児童が自ら取り組む働きかけの研究と実践としていく。

自分の考えをもち、主体的に学びに向かう「たくましく生きる子」を目指して、研究を進めていきたい。

２　研究のねらい

主体的に学びに向かう子の育成のためには、児童が自ら取り組む働きかけを工夫することが有効であることを、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

児童が自ら取り組む働きかけの工夫を行い、日常的に自ら考えることの大切さを伝え、実践する活動を推進することによって、児童は興味・関心を高め、進んで課題を発見したり、よりよい意見や方法を考えたり、悩んだりすることの楽しさを知り、主体的に学びに向かうことができるようになると考える。

４　研究内容

(1) 知的好奇心を高め、考える必要感がある課題提示や発問の工夫
(2) 自分の考えをもち、深める手立ての工夫
(3) 学びを深め、次への意欲を高める振り返りの工夫
(4) 児童が自ら取り組む働きかけの研究と実践

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者・題材名
６	１６	第１回授業研究　４学年　国語　「一つの花」 授業者　松生　章乃
７	１４	第２回授業研究　５学年　総合的な学習の時間　「豊崎のよさを発信しよう」 授業者　花田　貴光
１０	２０	第３回授業研究　１学年　道徳　「ぼくは　いかない」 授業者　濵田　真弓
１１	１９	第４回授業研究　６学年　理科　「てこのはたらき」 授業者　木村　允一 指導助言：八戸市教育委員会　教育指導課　小野寺　良治主任指導主事
１２	８	第５回授業研究　２・３学年　道徳　「わたしの　したこと」 授業者　福田　智恵子

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
５	２６	１人１台端末活用法 講師　八戸市総合教育センター　石井一二三主任指導主事
８	２０	AED による救命講習会 講　師：尻内分遣所署員

６　研究の成果

(1) 児童の思考の流れに即しながら、興味関心を高めたり、考える必要感がある課題提示や発問の工夫を継続して行ってきたことで、主体的に課題解決に向かう姿が見られた。
(2) ねらいを明確にした、教師や児童同士の関わりを通して、内容や形態、思考の可視化に取り組んだことで、自分の考えをもち、学びに向かう力の育成につながった。
(3) 日常において、児童が自ら取り組む働きかけの研究と実践を積み重ねてきたことで、自分の考えを大切にし、行動に移せる力の向上が見られてきた。

７　研究の課題

(1) 指示や提案をされるのではなく、児童が自ら考え、行動に移せる力をより発揮できるようにしていく必要がある。自分の考えをもち、より学ぶことを楽しめるよう、課題設定の在り方や単元の見通し、児童に応じた友達との関わり方や教師の支援の仕方等について、さらに研究していきたい。

（記入者　松生　章乃）